

り、反対に格別重要な事項を却て載せ、或は一回の記載で済むものを、標出文字を變へて重ねて載せたりしたところのあるのは慚愧に堪へぬ。後者は先づいゝとして、前者については、他日誤植訂正と共に補遺をつくる考である。

### 遼史索引の跋に代へて

此度刊出をみた「遼史索引」は、遼史の一般的研究を目標において編纂したが、愈々出來上つてみると、自から不満を感じる點が少くない。然し重要な事項については、一先づ役に立つことゝ思ふ。但だ重要と思はれる事項中にも不注意により、載せなかつたのもあ

り、標出及び排列の方法に就いても断つて置かねばならぬものがある。例へば職官名の標出は凡例に云ふ如く大小・北南等を冠せるものを大抵これ等の文字を省ける官名の箇所に出すことにして、一方必要と認めたものについては、これを冠せるまゝで出してあるものもあるので、其の間には適否の論議せらるべきものも相當あることゝ思ふ。又、凡例には記さなかつたが、耶律・蕭二氏の人名の標出に於て、姓を補つて掲出せるものと、姓を補はずに名だけで掲出せるものゝ二種がある、大體太祖以前の人名や、皇子名（耶律淳、雅里、大石等は例外）は名だけで出したのであるが、之中には妥當でないと見られるものがあるのであらう。便又更に、同一の記事を並べて排列するのは、一般に便利には違ひない、特に見出しが官爵名の場合には、同一人名に冠せる同一の官爵名は大抵初出のものだけ掲

げてあるので、これは同一人によつて各々一括排列する必要がある。然し、例へば、國名、部族名等によつて標出せられる記事の中には、この方法を探ると、同じく朝貢等の記事でも、年月、行文等の異同の爲に却て煩しくなるものが多い。此の様な場合には通巻順に従つて排列した。この方法によつたものにも當否疑問のものが少くないであらう。

まだ外に云ふべきことは多いが、就中、屢々稿を改めた爲に、注意しながらも方針の不統一を招き、編纂校正中に出来るだけ訂正を試みたがなほ及ばず、今にして穴にも入りたい心地するものがある。他日の補正を期する次第である。

此の書編纂及び校正に、羽田博士を始め、同室の戻友、山本守、小野川秀美、堀井一雄、上田敬一郎、愛宕松男、龜川正信の六君及び故田邊晃君等の非常な御指導及び御援助を蒙つた。記して萬謝すると共に、編者不敏の爲に生ぜじめた瑕璫について深く御詫びせねばならぬ。

(若城久治郎)

日本寄語（前號八八頁より續く）

快	走	安	排	不	來	獨	樂	羞	嚙	喜	飲	說	話	怠	慢	行	前	出	去	行	送與我
計法古	法古	蘇路	利何賣	水水	番助山	賈未且蘆	羅打	難利骨	打促忽	一啜水	一路	倭殺雞	倭計	滿蒲落	一	一路	一	一路	一	倭落	面皮？
ケハク	ハク	ソロ	リカブ	シハズサ	カシマダロ	哥賣	打促	多タリ	モノカ	跳(挑)	ルル	オサケ	クイイ	オルソ	ヨコブ	アル	オ	アル	オ	ルソ	ヨコブ
いはよ	はやく	そろう？	かぶるの名詞？	羞かし？											よ	さけ	？				行く